［有明抄］（2018.4.1）

○卯月、夏葉月など四月の４つの異称の由来（意味）を調べてみよう。

卯月	
夏葉月	
木葉採月	
清和月	

○四月以外の月の異名と由来（意味）を調べてみよう。

月		
月		

○自分の「よし！」という気持ち（意気込み）を書いてみよう

年　組　号（氏名）

○今日の有明抄にタイトルをつけてみよう。

有明抄

卯月、夏初月、木葉採月、清和月…。四月の異称はいくつもあるが、きょう「4月1日」を「わたぬき」とも読む。待望の春到来で、綿入り衣から綿を抜いて袷に着替える日として日本人の粋が呼ばせた名であろう◆一方、古代中国では、春の色を「青」とした。「木・火・土・金・水」という万物を構成する五つの元素による自然観で、その中から四季の色をそれぞれ「春（木）＝青」「夏（火）＝赤」「秋（金）＝白」「冬（水）＝黒」とあてたのだ。詩人北原白秋という筆名は秋の「白」に由来する◆そうか、春は青か。萌え出る木の葉を「青葉」というのも、元気な若者を「青年」といい、そのただ中にあるみずみずしい時代を「青春」というのも、なるほど納得だが、日本人にとって、春4月は1年の中でも特別な月のようである◆進学、就職、人事異動…。未知の世界への旅立ちとなるが、そこで、「よしっ！」という気持ちが大事だ。何事にもひるむことなく前へ歩こう。必ず喜びや感動がある◆さて、『有明抄』が小紙1面に登場したのは1950（昭和25）年6月1日。以来、何人もの筆者によって書き継がれているが、その「有明」の2文字は有明海のそれではなく、夜明けを意味する。読者と一緒に希望の「明け有る」を探す旅である。再登板にあたって…。（賢）

35　30　25　20　15　10　5